

昭和二十年八月十日

八月十日(土曜)

陸軍

昨夜二十三時ヨリ開カレタル御前會議ハ本朝三時迄終了外ニ續キ開議アリ。

九時三十分ヨリ地下防空隊ニ於テ陸軍省高級部員以上ノ集合ヲ命ゼラレ大臣ヨリ昨日ノ御前會議ノ模様ニ付左記要旨ノ説明アリ。

左記

昨夜十一時ヨリ本朝三時ニ亙リ御前會議開催セラレ皇室ノ保全ヲ條件トシテ「ボツダム」宣言内容ノ大部ヲ受諾スルコトニ御退斷アラセラルタリ。
然レ其之ガ効ヲ見ル爲ニ皇室保全ノ確證アルコトヲ前提トスルモノデアリ。予ノ微力迷ニカカル歸結ニ至ラシメタルハ諸官ニ對シ申譯ナク深ク責任ヲ感スルモ御前會議ニ於テ予カ主張シタルコトニ就テハ予ヲ信賴シ呉レルモノト信ス。コノ上ハ唯大御心ノマニ道ハ外ナシ。此ノ際左記ニ注意セヨ。
上、總テヲ捨テテ嚴肅ナル軍紀ノ下國統シテ越軌ノ行動ヲ禁ニ

0409

戒ム。國家ノ危局ニ際シテ無統制ナル行動ハ國ヲ破ル因ナ

國民ノ動向ヲ十分觀察シ之ヲ把握シテ大御心ニ從フ如ク

指導スルコト肝要アリ

海軍ニ立チタル大和民族ノ方向ヲ誤ラサシムルコト

軍ノ自瀆ハ必至

海外軍隊ノ處理ニ就テハ最精心事アリ

今後ノ外交交渉ノ經過ヲモ考ヘ軍ハ和戰兩用ノ趨勢ヲ以

テ臨ム要アリ

大臣説明ニ續キ吉野軍務局長ヨリ細部ノ説明アリ

此ノ夜大臣官邸ニ大臣ヲ訪ヒ九日ニ於ケル狀況ヲ聽取セル所

左ノ如シ

午前ノ最高戰爭指導會議ニ於テハ外務大臣及米内海相ヨリ

和平論アリ。和平交渉ニ入ル爲敵ト何等カノ手掛リヲ得ルコ

2-9

0410

ト絶対必要ニテ之が爲ニハ最小限ノ要求タル皇室ノ保全ノ
一係項ヲ「ボツダム」宣言内容ニ含まルルモノトノ了解ノ
下ニ受諾シ度トノ論ニ對シ大臣ハ戦争ノ繼續ヲ主張シ交渉
ノ餘地アラバ本報記載ノ四ヶ條ヲ國體維持ノ最小限條件ト
シテ附スルノ要アル旨力説シ梅津總長ハ豊田軍令部總長之
ニ同意セル由ナリ。

②此ノ會議ノ間軍令部次長大西中將來リ大臣ヲ呼ビ出シ米内
ハ和平アル故心許ナシ陸軍大臣ノ奮闘ヲ期待スル旨依頼セ
ルニ對シ大臣ハ承諾シ且海軍部内ノ立場モアルベク本件ハ
関カサルコトトシ度旨答ヘタリ。

③會議ハ意見對立シ議決ニ至ラズ一四ヨリ閣議ニ入ル
閣議ニ於テハ鈴木總理ヨリ最高戦争指導會議ノ模倣ヲ御傳
ヘスル旨直シ東郷外相大臣ニ披露セシム東郷ハ和平交渉ノ
手掛リヲ得ル爲ニモ一ヶ條ノ條件附ニテ受諾ノ要アル旨進
ベタリ之ニ對シ大臣ハ夫レハ外相ノ意見ニテ最高戦争指導

2-10

0411

會議ノ内容トハ英ル旨請ル。外相ハ之ヲ是認シ今ノ自己
 ノ見解アル旨述ブ次テ米内海相ハ戦局ノ不利ヲ述ベ一此ノ
 時敗北ト言ヒタルニ對シ大臣ハ一敗北ハケシカラスト請メ
 寄リ不利ト訂正セシム。軍需大臣ハ農商大臣ハ運輸大臣等
 ニ對シ遂次戦争機微ノ可能性アリヤト質シ各相交々困難ナ
 ル事請メ答フ茲ニ於テ大臣ハカカルコトハ既ニ十分承知ノ
 事ニテ本日今更繰リ返ヘス。要アシカカル状態ニ於テ之ニ
 堪ヘテ戦争ヲ遂行スベキカ今日ノ決心ナラヌヤト斷ス。

一時間休憩

④一ハニ頃ヨリ閣議再會。今度ハ端的ニ「ボツダム」受諾
 タ一ケ條件テヤルヤ四ケ條附ケルヤニ付議セラル和平交渉
 ノ手掛リヲ得ルナラ四ケ條ヲ附ケテハ駄目ナラト言フ。此
 見多シ。安井國務相ハ陸相ヲ支持セリ松阪法相ハ國體護持ヲ
 條件トスル以上軍備ノ保有ハ拒否ハ當然ノ條件ナ
 ルベシト正論ヲ唱フ岡田厚相モ右ト同ジ。但シ現實ノ狀況ハ

2-11

0412

和平ノ要アルベシト述ベタリ。ニニ〇終了。
 閣議ハ意見對立シ議決ニ至ラズニニ〇ヨリ御前會議開催
 サル此ノ間鈴木總理ハ參内閣議ノ經過ヲ上奏セリ。
 御前會議



會議室ニ入ルヤ机上ニ議案トシテ外相案印刷配布シアリ即
 天皇ノ國法上ノ地位ヲ確保スルヲ含ムトノ諒解ノ下ニ一
 ツダム一宣言案ヲ受諾スルノ案ナリ大臣ハ之ヲ見テ總長ニ
 對シ條件問題ヲ議スルヲ止メ戰線遂行一途張リテ論議スル
 ノ要アル旨耳打チシ總長同意ス。
 陛下臨御ノ上會議開始總理ヨリ閣議ヲ宣シ東郷議案ヲ説明
 次テ米内海相原案ニ同意ノ旨發言未ダ陸軍大臣ハ左ノ如ク

0413

殺 害 ス

先ヅ 謙 柔 ニ 益 然 不 同 意 ヲ 表 明 シ タ ル 後

イ、天 皇 ノ 國 法 上 ノ 地 位 確 保 ノ 爲 ニ ハ 自 主 的 保 障 ナ ク シ テ

ハ 絶 對 ニ 不 可 欠 臣 子 ノ 情 ト シ テ 我 ガ 皇 室 ヲ 敵 手 ニ 渡 シ テ

而 モ 國 體 ヲ 毀 持 シ 得 ル ト ハ 考 フ ル コ ト 能 ハ ス

ロ、今 次 ノ 行 キ 方 ハ 伊 太 利 屈 服 ノ 時 ト 同 様 ナ リ 敵 ノ 謀 略 ニ

乘 ル 能 ハ ス

ハ、一 カ イ ロ 會 談 ノ 承 認 ハ 滿 洲 始 メ 他 ノ 大 東 亞 諸 國 ニ モ

申 請 ナ シ 假 令 戰 争 ニ 敗 ル ト モ 最 後 迄 執 フ コ ト ニ 依 リ 日 本

ノ 道 義 ト 正 義 ト 勇 氣 ハ 永 久 ニ 衰 ル ベ シ 之 レ 國 家 ト シ テ 悠

久 ノ 大 義 ニ 生 キ ル コ ト ニ シ テ 精 神 ニ 於 テ ハ 天 壤 無 窮 ト 言

ヒ 得 ベ シ

ニ、戰 争 續 續 ニ 進 ム ベ キ モ 萬 一 交 涉 ノ 餘 地 ア ラ ば 國 體 護 持

ノ 自 主 的 保 障 ナ キ 軍 備 ノ 維 持 敵 駐 兵 權 ノ 拒 否 ヲ 絶 對 必

陸軍

要トシテ戦争犯罪者ノ處分ハ國內問題トシテ扱フベキ旨主張スル要アリ

本、最後ニ重ネテ「ソ」聯ハ不信ノ國アリ米ハ非人道ノ國ナリカカル國ニ對シテ保護ヲキ益室ヲ敵ニ委ヌルコトハ粗

對反對アリ

ハ、尙作戦上ノ判斷ニ就テハ兩總長ニ聽ル

次テ梅津總長ヨリ陸相ニ全ク同意ノ旨且作戦上ノ所見開陳アリ次テ總理ハ豊田總長ヲ措イテ平沼樞相ノ發言ヲ促セル

ヲ以テ大臣ハ紙片ニ「豊田ハ？」ト記シテ渡シタリ平沼ハ

二時間ニ僅ク突如修列セシ爲一般狀況ニ選購セサル故ヲ

以テ各參列者ニ質問ノ上「原案ニ同意ナルモ陸相ノ四ヶ條

モ至極尤ナル故十分考慮サレ度旨」贊否明瞭アラサル發言

ヲナセリ尙其ノ間「天皇ノ國法上ノ地位」云々ニ付日本

天皇ノ地位ハ國法上ノモノアラズ憲法以前ヨリノモノナル

コトヲ述ベ「天皇大權ノ確保」ノ趣旨ニ訂正ヲ要求シ修正

2-14

0415

セラレタリ(大臣ハ「バドリオ」ノ「カモフラード」ニ非
 ス。ト疑惑ノ念ヲ有タル)。次テ翌田軍令部總長ヨリ阿南陸
 軍大臣ノ意見ニ全ク同感ノ旨述ヘ且海軍トシテモ尙一戰ノ
 カアル旨奏セリ。大臣ハ平沼ノ意見贊否何レナルヤ分明アラ
 ラサル點モアリ之ヲ追及スベク「議長」ト發言ヲ求メタル
 モ總理ハ左耳越ク聞エズ發言ヲ開始セリ即遺憾乍ラ諒分レ
 テ決セズ三對三ナルヲ以テ此ノ上ハ「閣下」ノ御聖斷ヲ仰
 グ旨奏ス。此ニ於テ閣下ハ原案ニ同意セラレ彼我戦力ノ
 懸隔上此ノ上戦争ヲ繼續スルモ徒ラニ無事ヲ苦シメ文化ヲ
 破壞シ國家ヲ滅亡ニ導クモノニシテ特ニ原子爆彈ノ出現ヘ
 コレヲ甚シク依テ終戦トスル。忠勇ナル陸海軍ノ武裝解
 除ハ忍ビズ又戦争犯罪者ハ朕ノ忠臣ニシテ之レカ引渡シモ
 忍ビザル所ナルモ明治大帝ガ三國干涉ノ時忍ハレタル御心
 ヲ心トシテ將來ノ再興ヲ計ラントスルモノナル旨「聖斷」ア
 リタリ。

陸軍 16

2-15

0416

19

②次テ閣議アリ大臣ハ其ノ席上敵ノ借用程度如何ノ皇室保全ノ確證ヲキ限り陸軍ハ戦争ヲ繼續スル旨述ベ更ニ總理ニ對シテ天皇大權ヲハツキリ認ムルコトヲ確認シ得サル時ハ戦争ヲ繼續スルコトヲ首相ハ認ムルヤト訊シタルニ對シ總理ハ小聲ニテ認ムル旨答ヘタリ更ニ海相ニ對シ同様ノ質問ヲ發シ米内ハ戦争ヲ繼續スル旨答ヘタリ

午後重臣會議アリ

六午後臨時閣議アリ發表方法ニ付検討セラレシ模様ナリ

七夜子ハ九時頃ヨリ大臣ヲ訪問十一時頃迄第四項ノ如キ話ヲ承ヘル

2-

0417